

議事録

● 会議名：第50回中四国学生剣道連盟理事会

- 日時：2015年5月16日PM2時00分より
- 場所：松山大学御幸キャンパス・メインアリーナ 中2階 会議室
- 構成員：36名
- 参加者：藤原崇郎、渡邊道德、福井悦郎、木原資裕、榊 康守、河内 泉、草間益良夫、大城戸 功、山神眞一、村井慎治、石井博貞、境 英俊、竹内善一、宮本理幸、野中慧吾、安部一希、城山太一、谷本悠樹、磯邊夏紀、菱川皓太、井内香里、寺内友章、三好恒平、小松良成、杉若剛志、中原 誠、古田千佳、三浦和紗（以下委任状により出席と見做す）、三浦利雅、廣畑栄三、香川直己、矢野宏光、金築佳佑、中西なつみ、山口真利佳、橋本遥果、以上36名、欠席者：0名
オブザーバーとして、森 正典、宮川 健、近藤裕樹

上記の通り、全体の3分の2以上の出席があった為、本会議は適法に成立した。
野中慧吾幹事長を議長として議事が進められた。

● 記 録

氏名：城山太一

E-mail：info@chushi.xsrv.jp（不明点はこちらへ）

● 開会の辞

開会に先立ち平成27年3月12日にご逝去された相談役の石原忠美先輩へ哀悼の意を表し、黙祷が行われた。

藤原崇郎会長が開会の辞で、例年とは異なった会場（松山大学）で開催されることになり、特に松山地区の大学先輩各位及び学生役員に場所が変更になったことで大変お骨折りを頂いたことへの謝意が述べられた。本大会がスムーズに成果を上げて終わるように、これからの会議・研修会・明日の大会がそつ無いように皆様に協力して運営して頂きたい、とのお話があった。

● Summary :

- 議題1：第49回理事会議事録確認
- 議題2：幹事会報告（リーゼミ報告・脱退・選手権・その他）
- 議題3：不祥事に関する中四学連規約細則と全日学連内規について
- 議題4：全日理事会報告
- 議題5：平成26年度決算案
- 議題6：平成27年度全剣連「剣道有功賞」について
- 議題7：剣友会（中四国学連剣友剣道大会）の予定
- 議題8：その他

1. 第49回理事会議事録確認

第49回理事会議事録を異議なく承認した。

2. 幹事会報告(リーゼミ報告・脱退・選手権・その他)

報告者：野中慧吾・谷本悠樹・安部一希

平成27年4月18日に愛媛大学にて常会幹事会が行われた。

1. 平成26年度リーゼミについての報告

- ・リーゼミでの懇親会において今回も過度な飲酒により他大学や他団体に迷惑をかける事例が発生したことを受け、その対策として次年度からは試験的に一人あたりの飲酒量を定めることが決定した。
- ・今回もリーゼミ当日に参加をキャンセルする大学があったため、各大学に参加の必須を徹底していくとともに、参加できなかった大学にもビデオ配信・レポート提出等で全大学が参加したという形にしていくことが提案された。
- ・次回リーゼミの開催日程が平成28年2月27日～29日に国立江田島青少年交流の家で行われることが報告された。

2. 広島市立大学の連盟脱退についての報告

- ・広島市立大学の連盟脱退が正式に承認された。

3. 平成27年度の選手権についての報告

- ・本大会が松山大学御幸キャンパスで行われ、それに伴い交通・駐車場での問題が発生したことを受け、その対策として選手や観客はタクシーで直接会場に乗り付けることを禁止するなどの提案がされた。
- ・また、保護者や応援者の観覧席がほぼない状態であるため、次回大会の会場の候補として松山市のコミュニティセンターや高松市で行う、新居浜市などのより大きな体育館で行うなどの検討案が提案された。
- ・女子の試合時間が全日と同様に5分となったことが報告された。

4. その他

- ・新人戦の名称変更について、前回の理事会で提案があり、幹事会で検討した結果、「中四国学生剣道新人大会」とすることが決定した。
- ・平成29年度のオープン大会の主管が中四国学生剣道連盟であり、それに伴い新人大会の主管を香川大学、リーゼミを広島大学が行う方向で報告された。
- ・平成29年度の新人大会の開催時期を12月に行うことが報告された。
- ・中四国選手権大会の出場枠を部員数の比例に応じた算出方法に、一大学出場枠の上限を男子16名、女子9名(全日本大会の出場人数)に変更することへの提案について議論が行われたが具体的な内容については次回へと持ち越された。

3. 不祥事に関する中四学連規約細則と全日学連内規について

報告者：石井博貞

不祥事に関する中四学連規約細則と全日学連内規を比較して中四の方では報告に関する義務化がないのに対して、全日では義務化があるため義務化の明文化という点に関して議論が行われた。

- ・草間益良夫先輩からパワハラ、セクハラ等についてどの程度から報告するかの基準として線引きが必要であると提案された。
- ・山神眞一先輩から事例が出てこないと分からないので事例を多く報告してもらい特別委員会で判断していく必要がある、事例があった場合は部長もしくは監督からの報告を求める方がよいと述べられた
- ・結論として、不祥事が発生した場合、部長もしくは監督からの報告を義務化することを中四学連規約に明文化することが決定した。

4. 全日理事会報告

報告者：福井悦郎・野中慧吾・磯邊夏紀

配付された全日本学生剣道連盟平成27年度第1回議事録について議論された。

- ・剣道有功賞を受賞される際のバッチの費用負担について平成27年より全日が負担することとなった。
- ・全剣連からの要請により代表候補選手の世界選手権までの試合の出場を自粛するよう来ており、代表候補選手が全日本選手権大会の予選大会に出場できないため、当該選手の全日本選手権大会の出場について特別枠が設けられることとなった。

全日本審判委員会からの報告について

- ・女子の全日本優勝大会の試合時間を昨年度5分で行った結果、引き分けの数が減ったという報告があったためそれに伴い、中四国大会の女子の試合時間を5分にする事とした。
- ・規格外竹刀に関して大幅な増加がみられ、竹と竹の間にすき間があるすき間竹刀というものが多く見受けられたがこの基準に関して各地域連盟で差がありその基準に関して見る人によって誤差が生じるため誰が見ても正しい基準がとれるようなものを今審議中であることが報告された
- ・鏢競り合いからの引き技を打つ際に離れる意思を見せながら引き技を打つことに関して公明正大ではないため有効打突としないようにすることが報告された。これに関して技の審判の判断意識（離れ際の引き技の公明正大）について議論がなされた。

「ここ数年各種大会において鏢競り合いからの引き技で勝敗が決定する場面が多く見受けられます。鏢競り合いについては色々議論されていますが最近一部に鏢競り合いからの引き技の打突機会において公明正大さに欠けるような行為が見られます」

- ・上記について審判者会議・監督会議と審判研修会で徹底指導の説明で解決を図っていくことになった。

5. 平成26年度決算案

報告者：杉若剛志

- ・前年度との比較して登録人数が減少（23名）傾向にある。また、特別会計を設置し、8回オープン大会の繰越金867,990円を含めたことが報告され、平成26年度決算案が承認された。

6. 平成27年度全剣連「剣道有功賞」について

報告者：野中慧吾

- ・剣道有功賞の選出を各地域連盟が8月末までに行うが、本年度優勝大会が9月に行われるため理事会が8月末に間に合わない。推薦者を幹事長宛に連絡してもらうことが決定した。

7. 剣友会(中四国学連剣友剣道大会)の予定

報告者：宮川 健

- ・平成27年3月22日に第7回全日本学連剣友剣道大会が岡山県桃太郎アリーナで行われ、459名が参加され成功に終わったことが報告され、成功に尽力していただいた方々へのお礼が述べられた。
- ・今年度の第17回中四国学連剣友剣道大会が松山市の愛媛県武道館で12月6日に行われる予定であること、次年度の第18回大会を岡山で12月4日を第1候補として予定されているの報告された。
- ・第7回全日本学連剣友剣道大会の際に「剣道」「警備」という腕章を中四学連剣友会が購入し中四学連に寄贈されたことが報告された。

8. その他

- ・石井博貞先輩より平成28年度の優勝大会が9月4日に岡山市総合文化体育館で行われる予定であることが報告された。
- ・藤原崇郎会長より5月の称号審査で顧問の橋本健蔵先輩が範士に称号されたことが報告された。

閉会の辞

藤原崇郎会長より、連盟の運営の上（組合せ抽選・選手の大学人数割り・審判の割り当て等）で公正さを保っていくことを心がけていくとともに、大会（選手技量・審判技術）のレベルアップを図っていきたいとお言葉があった。

以上の議事を終え、本会は午後14時58分、議長が閉会を宣言して散会した。
上記決議を明確にするため議事録をここに記す。署名人はこの議事録が正しいことを以てここに記名及び押印する。

平成27年5月16日

中四国学生剣道連盟 第50回理事会

署名人 村井慎治

署名人 城山太一



次回 MTG

日時：2015年9月5日

場所：岡山大学 学生会館 ホール